

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第147回 刈高



先生：刈込と肥料の関係の話は理解出来たかしら？
生徒：芝生を維持するための刈込作業が、管理作業の一番重要な事なのはよくわかりました・・・

先生：そうね・・・そして刈込と施肥はとても深く関連している作業であるということね・・・刈込によって取られる葉の中に含まれる窒素、リン、加里を、1年間調べて数値を出している

データがあるわ・・・これはアメリカの寒地型エリアのゴルフ場の結果ね・・・

生徒：やはり、葉身分析の理想値と同じ比率ですね・・・

先生：本当に分析結果は正直ね・・・

生徒：つまりこの刈り取られた窒素、リン、加里を補う量の施肥が必要という事なんですね・・・

先生：単純な話ね・・・そしてその時に重要なことは施肥した肥料の養分がどれだけ芝生に吸収されるのかということなのよ・・・

生徒：速効性の窒素肥料では半分しか吸収されないんですよ・・・

先生：そのとおり・・・だから緩効性の肥料が必要ね・・・特に気温の高い夏なら土壌微生物の活性が上がるからより多くの窒素が流亡・脱窒で失われるわ・・・

生徒：温暖化ですからますます速効性肥料では効果が出なくなる・・・つまり無駄なんですね・・・

先生：温暖化では激しい雨も降るわ・・・そのために排水性を良くしているからなおさら窒素は流亡していくわね・・・

生徒：なんとということでしょうか・・・

先生：そして良く研げた刃の刈込機械も重要だけど、より重要なのは何ミリの刈高で刈るかなのよ・・・

生徒：そうですね・・・刈高が高い方が光合成をする面積も広がるし、根もより深く張るから芝生も強くなりますものね・・・

先生：そういうことね・・・表を見て頂戴・・・芝生の種類によっ

て理想的な刈高は決まっているわ・・・

生徒：なるほど・・・やはりグリーンに使われるクリーピングベントグラスは最も低く刈れるんですね・・・

先生：そうね・・・でも逆に高すぎると密になり過ぎたりして芝生として弱くなるからラフなどには使いにくいわね・・・

生徒：やはり適材適所ですね・・・

先生：ペレニアルライグラスはグリーンにも使えるぐらい低刈抵抗性があるけど・・・刈高が高い方がやはり圧倒的に強いわ・・・

クリーピングベントグラスのパッティンググリーンで年間に刈り取られた窒素、リン、加里の量

元素	m ² 当たり年間刈り取られたg数
窒素(N)	22.0
リン(P)	3.2
加里(K)	12.0

芝質と生育を維持するための理想的刈高

相対的刈高	刈高(mm)	芝生草種
大変低い	5~12	クリーピングベントグラス
低い	12~25	カタピラ、バミューダグラス、日本芝
中庸	25~50	ケンタッキーブルーグラス、ペレニアルライグラス、レッドフェスク
高い	38~75	トルフェスク、パヒアグラス
大変高い	75~100	カナダブルーグラス

「Turfgrass: Science and Culture」James B. Beard著より

生徒：なるほど・・・やはり芝種によって個性があるんですね・・・

先生：またケンタッキーブルーグラスやバミューダグラスの『品種』によっては、それぞれ品種改良されて刈高に対する抵抗性が違う物があるのでそれぞれの特性も考えないといけないわね・・・

生徒：バミューダグラスではグリーン用やフェアウェイ用に品種改良されている物がありますね・・・

先生：そうね・・・日本芝も高麗芝と野芝では違うわね・・・野芝は高麗芝より高めの方がいいわね・・・

生徒：そして・・・それぞれの芝生の窒素の要求量に合わせて年間の施肥を考える・・・

先生：そういうこと・・・よく「芝が伸びるので肥料を切る」と言われるけど、本当は伸びるときほど肥料を与えないといけないわ・・・伸びる時というのは伸びることが出来る時ということ、その時に養分を蓄えさせないといけないし、伸びているということは刈取量が多くなっているのよ、より多く刈り取られている分、より養分が必要ということなのよ・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

